

DMG MORI SAILING TEAM 11月8日スタートまであと24日！

— Vendée Globeへの道 —

皆さま、こんにちは！

「DMG MORI SAILING TEAM」と白石康次郎選手の挑戦をお伝えするメルマガ

『DMG MORI SAILING TEAM -Vendée Globe への道-』の第14号です。

今回は、「Vendée Globe 2020」に向け、

9月中旬まで実施していたDMG MORI Global One号の

メンテナンスを中心にお届けします。

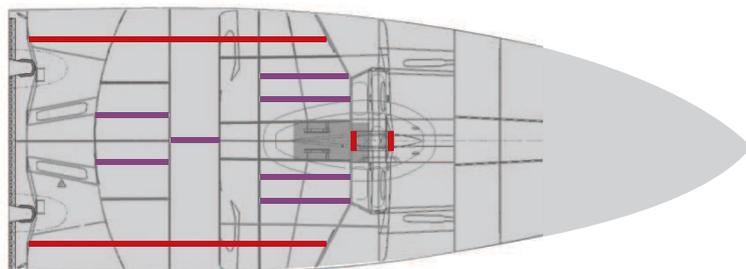


「Vendée Globe 2020」に向け 予選レース後の大規模 メンテナンスを完了

DMG MORI SAILING TEAMは、7月に行われた予選レース「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」終了後、着々とDMG MORI Global One号の集中メンテナンスを進めました。

9月15日にメンテナンスを終えたDMG MORI Global One号は無事にヤードから海上へと下ろされ、現在は「Vendée Globe 2020」に向けたトレーニングに入っています。今回のメルマガでは、9月15日まで行われていたメンテナンスの様子をお伝えしていきます。

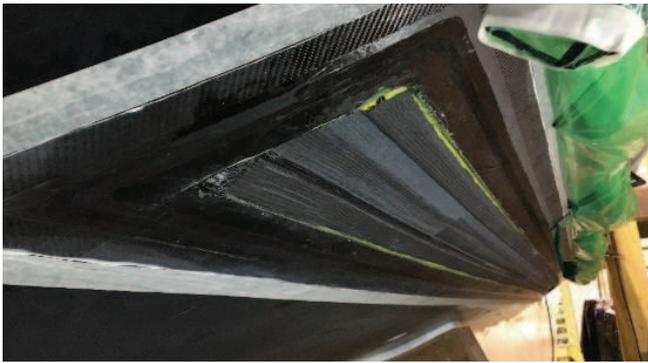
まずは船体の補強です。フォイル艇の場合、跳ね上がりながら走行するため、船底の接水面に想定以上の負荷がかかることがわかっています。この負荷に船が耐えられるよう、フォームという補強材を追加することになりました。



— 外側からの補強

— 内側からの補強

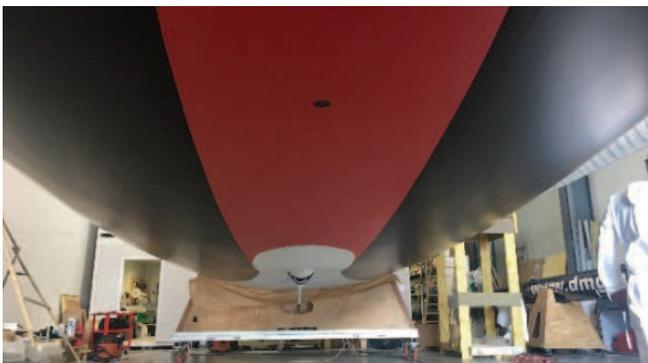
DMG MORI Global One号を上から見た図。
フォームによる補強を施した箇所。



フォームによる補強の作業が完了したら、カーボン表面を研磨し、プライマーという下地剤を塗布したうえで塗装。



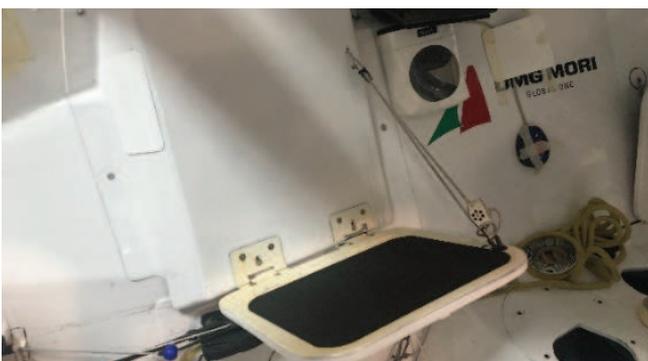
塗装の際は、塗料が飛び散らないようビニールを張って行く。



船底の塗装が完成したところ。赤、黒、白がきれいに塗り分けられている。

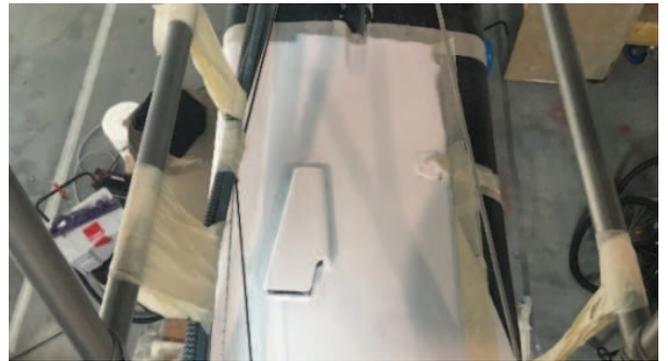
この他、船体関係のメンテナンスについていくつか紹介しましょう。

コックピットは、フォイル艇ならではの激しい揺れのなかで安定した操船ができるよう、ステアリングポジションをソフトな座面に変更しました。



コックピットに設置されたソフトな座面。

また、船首のバウスプリットの改良、キャビンの内壁、アウトリガーの補強など、各部のメンテナンスや補修も行っています。



タックラインが傷まないように改良が施されたバウスプリット。

続いて、電気系統も見ていきましょう。ナビゲーションディスプレイ、バッテリー、通信衛星の設置などを行っています。



各種情報の表示を行うナビゲーションディスプレイの設置と配線作業。



バッテリーは、予選レース「Vendée-Arctique-Les Sables d'Olonne」で高温となり不具合を起こしたリチウムイオンバッテリーではなく、使い慣れた従来のバッテリーに変更。



通信衛星システムの設置。周回衛星を使う従来のイリジウムに加え、静止衛星を使うインマルサットを新たに追加。

最後に、フォイルとキールを取り付け、海上に下ろしたらマストを取り付けていったんメンテナンスは完了です。



フォイルを取り付けた船体の重量は4.13トン。これに重さ4トンのキールを設置。



水面に下ろしてからマストを設置。

以上、駆け足ですが、DMG MORI Global One号のメンテナンスの様子をお伝えしました。船本体から電気システムまで、さまざまな補修や改良を行っていることがご理解いただけたのではないのでしょうか。ひとまずメンテナンスは終了しましたが、白石選手のトレーニングのフィードバックをもとに、今後もちろん調整を続けていくことになります。

次号のメルマガでは、現在、白石選手が取り組んでいるトレーニングの状況や、レース本番を直前に控えたチームの様子などについて詳しくレポートする予定です。

DMG MORI Global One 号の装備

白石選手がレース中の楽しみのひとつと話すのが食事。DMG MORI Global One号のメンテナンスが進んでいたある日、白石選手自ら、「Vendée Globe 2020」に持っていく食料の整理をしました。



食料は1日ずつに小分けしてパッキング。

レースは2か月以上に及ぶため、この準備には広い場所が必要となる。

「Vendée Globe 2020」最新情報

9月17日に行われたVendée Globe公式記者会見から、メルマガ13号で有カスキッパーとして紹介したベユ選手、トムソン選手、そしてルカム選手のコメントをご紹介します。



ベユ選手「ここに向けて準備をしてきました。クルーに感謝しつつ、ここから先の結果は私次第なのでベストを尽くします」



トムソン選手「ここまでの準備や努力に自信を持ってレースにのぞみます。目標は当然勝つことです」



ルカム選手「Yes we CAM!というキャッチフレーズで楽しく準備をしてきました。できる限りのことをしようと思います」

また、「Vendée Globe 2020」大会事務局にて、「ヴィレッジは予約制で1日5000名まで入場を許可」「各スキッパーはレースの7日前から隔離」「クルーやメディアは3日前にPCR検査を受ける」など、選手やチーム、そしてファンが安全に楽しむための運営方法が検討されています。

白石選手からのメッセージ

いよいよ「Vendée Globe 2020」のスタートまで、1か月を切りました。
チームは、急ピッチで準備を進めています。

この号が発行されている頃には、現在ベース地として活動しているロリアンからスタート地のレ・サブル・ドロヌへとチーム全員で移動します。

ご支援いただいている皆さまに、あの素晴らしいスタートの光景を直接見ていただきたかったのですが、コロナ禍の中で渡航もリスクを伴い、ヴィレヅ見学も予約制になるなどの規制があり、お越しいただくのは難しい状況となっています。
残念ではありますが、メディアやSNS、本メルマガを通じて皆さまにお伝えしていければと思います。

ヴィレヅに入ってから、各部の確認作業をはじめ、多くの作業があります。
トップチームでもリタイアを余儀なくされるかもしれない過酷なレースのため、限られた時間の中で、準備をしっかりとって挑みたいと思います。

引き続き応援よろしくお願いたします。

感謝

白石 勇 行



GOLD SPONSOR



SILVER SPONSOR

GOLDWIN



BRONZE SPONSOR



OFFICIAL SPONSOR



HAIMER



医療法人社団 愛友会
上尾中央総合病院
Ageo Central General Hospital